

草の根通信

Vol. 65 (2010年10月23日発行)



万次郎が金を堀ったゴールドラッシュの場所でパニング(金採取)

目次

- 02 広告
- 特集
「サンフランシスコ/ベイエリア大会
開催報告」
- 03 大会総括・参加者数データ
大会スケジュール
- 04 8/24の行事紹介
マッシー村上さんのスピーチ要旨
シュワルツェネッガー州知事の
ビデオメッセージ要旨
- 05 8/25の行事紹介
クリントン国務長官のメッセージ
- 06 徳川恒孝さんによる基調講演要旨
- 07 地域分科会
- 08 クロージング/オプション・プログラム/
スタッフ紹介
- 09 参加者の声
- 特別寄稿
- 10 CIE-US 元アメリカ代表
ポール丸山さん寄稿
- 11 広告
- 12 高知大会予告 日程決定
協賛企業一覧

特別寄稿

『ESCAPE FROM MANCHURIAの
出版に際して』

CIE-US 元アメリカ代表
ポール丸山さん



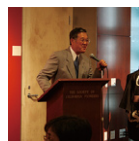
高知大会予告

万次郎のふるさと
～高知大会の日程決定



協賛企業一覧

平成21年度寄附協賛企業一覧



参加者の声

地域分科会(ホームステイ・プログラム)
クロージング/オプション・プログラム/スタッフ紹介

徳川恒孝さんによる基調講演要旨

クリントン国務長官のメッセージ

シュワルツェネッガー州知事のビデオメッセージ要旨

マッシー村上さんのスピーチ要旨

多くの著名人の皆様にメッセージを頂きました

オープニングセレモニー

8月24日、25日の行事紹介

市内観光・野球観戦・ローカルツアー・

大会総括、参加者数データ、大会スケジュール

過去最多の参加者を迎えた大会を振り返る

たくさんのみなさんのご協力ありがとうございました
サンフランシスコ/ベイエリア大会 開催報告

特集



世界初。

ANAは世界に先がけて、ボーイング787を導入いたします。

※写真はイメージです。

ANA | A STAR ALLIANCE MEMBER 

www.ana.co.jp

サンフランシスコ/バイエリア大会



1人で参加した遠藤駿くん(前列左から2番目)とクラレンドンスクールの生徒たち

開催報告

第20回日米草の根交流サミット・サンフランシスコ/バイエリア大会は、2010年8月24日から31日まで、サンフランシスコと周辺の各郡で開催されました。日本からは250名の参加を得て過去最大規模となり、現地でのホストファミリー確保には苦労もありましたが、「すばらしい体験をした」「感動した」という感想がたくさん寄せられています。

大会参加者数

日本からの参加者:約250名
参加者総数:約3,200名

(日本からの参加者、現地のホストファミリー、ボランティア、ゲスト等)

イベント別参加者

- 1) SFジャイアンツ観戦:約650名
- 2) オープニング・セレモニー参加者:約610名
- 3) クロージング・セレモニー参加者:約550名



大会スケジュール

8/24(火)	参加者・日本出発 サンフランシスコ到着 市内観光 ジャイアンツ戦観戦 ＜セント・フランシスホテル＞
8/25(水)	ローカル・ツアー オープニング・セレモニーと ウェルカム・レセプション ＜セント・フランシスホテル＞
8/26(木)	地域分科会へ出発 ＜ホームステイ＞
8/27(金)	地域分科会プログラム ＜ホームステイ＞
8/28(土)	
8/29(日)	各地域からジャパントウンへ移動 クロージング・セレモニー/ジャパントウンお祭り ＜ホテル・カブキまたはホテル・トモ＞
8/30(月)	成田へ向けて出発 またはオプション・プログラム へ参加
8/31(火)	帰国



8月24日の行事紹介

サンフランシスコ市内観光

サンフランシスコ空港到着後は、咸臨丸ゆかりの場所や市内の名所を観光。また、パイオニア・ミュージアムにて、日本人大リーグ第1号の村上雅則氏の講演や、日米野球交流の展示を見学。



日本人墓地

フィッシャーマンズワーフにて

パイオニア・ミュージアムで日米野球交流イベント



パイオニア・ミュージアムでの日米交流イベントの様子



サンフランシスコ・ジャイアンツ戦



フィールドでサミット関係者を紹介



S Fのヒップホップチーム

仙台からのモダンバレエ

試合前のイベントでは、村上雅則元投手、徳川恒孝氏、マシュー・ペリー氏、アマコスト実行委員長、渡辺理事長他がフィールドで紹介された後、SFのヒップホップダンス、宮城からの津軽三味線にあわせたモダンダンスが披露された。外野席の大スクリーンには、松井秀喜選手からの歓迎メッセージと、サミット大会の紹介も投影。



松井秀喜選手からのメッセージ

マッシー村上さんのスピーチ要旨

ジャイアンツ観戦の前、パイオニア・ミュージアムでの村上雅則さん(マッシー村上)のスピーチを要約してご紹介します。

ようこそ皆様。

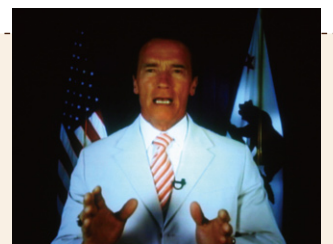
私は、南海ホークスから「南海に入ればアメリカに留学させてやる」という話を聞き、大学進学からプロ入りに気が変わりました。今から約半世紀前の話で、アメリカはまだ日本人にはなかなか行けない夢の国でした。プロ入り2年目の1964年、アリゾナの春キャンプに参加。通訳はおらず、日英と英日の辞書を持ってフィールドに出ていました。シーズンに入るとローカル紙には「マッシー村上が投げて、アーリーブラウンが打てばフレスノ・ジャイアンツは勝つ」という記事が載ったものです。メジャーは9月1日には若い選手を起用するのですが、その年にはなんと私が指名され、ニューヨークのスタジアムで8回の裏に名前を呼ばれて投げました。これが、メジャーデビューでした。マウンドに上がる時に見たのは4万人の観客で、気持ちを落ち着かせるためスキヤキソングをハミングしながら歩いて行きました。翌年もメジャーでプレーし、そのまま続けたかったのですが、ホークスとの約束を重んじて、私は泣く泣く日本に帰りました。それから30年たって野茂が海を渡りました。今は日本の選手がこちらで多くプレーし、日米野球交流が深まっていることを喜んでます。日本からきた皆さんも、短い滞在ですが、十分にアメリカの社会を見て、日米の交流につくしてもらいたいと願っています。



シュワルツェネッガー知事からのビデオメッセージ要旨

みなさん、カリフォルニアへようこそ!

日米草の根交流サミット大会の参加者として、日本から過去最多の方々がいらしてください、本当にすばらしく、とても嬉しく思います。皆さんはこれから、このバイエリアで様々な体験されることでしょう。ここはとてもすばらしい地域です。美しい海岸線、きれいな景観、様々な美味しい料理に加え、すばらしい人々が住んでいます。もちろん、日本の方々との強い絆もあります。(続きは、WEBで動画をご覧ください。http://www.manjiro.or.jp)



8月25日の行事紹介

ローカル・ツアー

5つのローカル・ツアーが催され、参加者は希望のツアーに参加。また、サンフランシスコ滞在の約40名は、ジャーナリスト・松尾文夫氏の講演を熱心に聞きました。



ゴールド・カントリーツアー

シリコン・バレーツアー



ショップ&ウォーク

ワイン・カントリーツアー



松尾文夫氏セミナー

モンテレー、カメル、サリナスツアー

オープニング・セレモニーとウェルカム・レセプション

夕刻、セント・フランシスコホテルのホールで、いよいよオープニング・セレモニーを開始。柴田雅人氏の津軽三味線に続き、グライドアンサンブル合唱団に率いられて日本人参加者全員が着席。式典参加者数は610名。その後、最上階(32階)にてウェルカム・レセプションがにぎやかに催されました。



藤崎 一郎
在アメリカ合衆国
日本国大使

アマコスト元駐日大使・
大会実行委員長

渡邊 泰造
CIE 理事長

光岡 英行
在サンフランシスコ
日本国総領事代行



司会
ジャン・ヤネヒロ氏



徳川 恒孝
徳川宗家 18 代当主



ペリー提督の子孫、
マシュー・ペリー氏



デーモン牧師の子孫
エズメ&ジュリア・
デーモン姉妹



津軽三味線



ホイットフィールド船長、
ジョン万次郎の子孫による地球儀交換



グライドアンサンブル合唱団



高橋裕子ダンスカンパニー
「波：太平洋漂流」

鏡割り



鏡会による餅つき

歓迎パーティー

クリントン国務長官からのメッセージ

日米草の根交流サミットの参加者の皆様をこの美しいカリフォルニアのベイ・エリアにお迎えできることは私にとって大変嬉しいことであります。日本とアメリカのパートナーシップは、お互いの共通の価値観と関心事、長年にわたる友好関係、そして人と人との強い絆の上に成り立ってきました。今年は、初期の日米関係に重要な一里塚となり、活気に満ちた日系アメリカ人社会のルートを築いた咸臨丸のサンフランシスコ来航150周年にあたり、今年のサミットはこれを祝う年の開催となりました。

日米関係の長い歴史と重要性に敬意を表し、ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センターのこのサミット開催に向けての皆様のご尽力と、両国間の文化交流促進に向けての多大なる貢献に対して心より御礼を申し上げます。

サミットを通して多くの友情が生まれ末永く続いていくことを確信しています。サミットのご成功を心よりお祈り申し上げます。

ヒラリー・ローダム・クリントン

徳川宗家18代当主

徳川恒孝さんによる 基調講演要旨



徳川幕府は1603年から1867年まで、260年以上にわたって平和を守って日本を治めてきました。そして、その間に国内では日本独特の高い文化が発展しました。しかし、1800年代に入ると海外からの開国を求める圧力が強まってきました。最初にやってきたのがロシア。次がアメリカです。イギリスやフランスも近海までやってきて圧力をかけました。

万次郎がアメリカへ渡ったその頃は、徳川幕府はこのように圧力をかけてきた国々を全て追い返していました。しかし、同時に世界各地の様々な情報も入手していました。もっとも衝撃を受けたニュースは、あの強大な中国がアヘン戦争でイギリスとフランスに屈したことでした。

天皇を初め、大方の大名たちは鎖国の継続を望んでいましたが、幕府は徐々に、海軍力の無い日本が鎖国を続けることは無理だと感じていました。1853年のペリー提督率いる黒船来航については、実はその一年前にオランダ政府から情報を入手しており、幕府はそれを大名達に伝えていましたが、誰もどのように対応すべきかわかりませんでした。

一度目の来航の際には、親書を渡しただけで黒船は去って行きました。そこで幕府はすぐに帰国した万次郎を呼び寄せ、アメリカについての情報を収集しました。それまで、外国の情報は主にオランダ人から得ていましたが、アメリカの生の実情についてはめったに情報が入ってきませんでした。万次郎はアメリカがイギリスと戦い独立を勝ち取ったことを話しました。幕府の役人は文書ではそのことについての知識はありましたが、直にイギリスとアメリカが戦った話を聞くのは、この時が初めてでした。イギリスの強烈な植民地政策を感じていた幕府は、アメリカに好感を持ちました。もうひとつ、幕府の役人を驚かせた万次郎の話は、アメリカの王様（大統領）が4年おきにその国民によって選ばれているということでした。役人たちは、万次郎が説明したアメリカ政府の仕組みや、国の治め方について、大変感銘を受けました。

幕府が和親条約に調印した背景には、こうした万次郎から得たアメリカの詳細な情報があったのです。

調印に至ったもうひとつの重要な要因は、ペリー提督がアメリカはアヘンの取引はしないと明言したことです。日本人の大半はこの徳川幕府の開国の決断に不満を感じていましたが、結果的には幕府の選択は正しかったと思います。

大変興味深いことは、万次郎がこうして徳川幕府の政策を変えたということです。これも、元をたどれば、心温かいホイットフィールド船長が、漂流して無人島にいた万次郎を助け、自分の家に滞在させ、教育を与えてくれたおかげです。

従って、私は、今回のこのサミットによって、また新たな交流の一步が踏み出されることを強く願っています。ホームステイ先の家族と参加している若い方々が、また世の中の流れを変えてくださるかもしれないからです。今後も多くの方々の支援のもと、この活動が続いていくことを願っています。

特集 サンフランシスコ/ベイエリア大会 開催報告

地域分科会ーホームステイ・プログラム

8月26日午前、参加者は地域分科会に出発。11の地域やテーマ別の分科会に分かれ、ホームステイをしながら現地の方々と交流を深めました。(サンフランシスコはA～Cの3グループ)

1. マリン郡 9名



2. ソノマ郡 17名



3. ソラノ郡 16名



4. コントラ・コスタ郡 19名



5. アラメダ郡 19名



6. サンタ・クララ郡 25名



7. サン・マテオ郡 7名



8-A. サンフランシスコA 21名



8-B. サンフランシスコB 22名



8-C. サンフランシスコC 10名



9. 日系アメリカ人との交流 17名



10. ナパ郡 10名



11. ギルロイ 5名



特集 サンフランシスコ/ベイエリア大会 開催報告

地域分科会終了日、29日午後3時から、ジャパントウン内のホテル・カブキで、ホストファミリーを交えてクロージング・セレモニーを開催。約550名が参加。挨拶に続き、分科会を振り返った後は、翌年の高知大会のアピールも。その後は、ジャパントウンで開催された威臨丸150周年記念の盆踊り大会を楽しみました。

クロージング・セレモニー 8月29日



リチャード・ウッド CIE-US 理事長



大会貢献者を紹介する田口理事



アートプロジェクト



映画「はりまや橋」監督
アーロン・ウールフォーク氏



クロージング・セレモニー



ジャパントウンよさこい踊り



ポスト・サミット・オプショナル・プログラム 8月30日～

大会終了翌日の30日からは、5つのオプショナル・プログラムを開催。サンフランシスコ延泊、シアトルでのマリナーズ観戦、また、コロラド・スプリングス、ワシントンDC、フェアヘイブンでのホームステイで、さらなる文化体験と友情を深めました。



コロラドスプリングスホームステイ



フェアヘイブン～フリー



ワシントンDC ホームステイ



サンフランシスコ延泊フリー



シアトル・マリナーズ観戦

SBGS 2010 San Francisco Bay Area Grassroots Summit

サンフランシスコ・ベイエリア大会のスタッフをご紹介します。



ローカルツアー・リーダーの皆さん



リージョナル・リーダーの皆さん



SBGS実行委員会の皆さん

参加者の声

日系アメリカ人の苦難の歴史に触れ胸が痛んだ 横田 栄さん

以前から日系アメリカ人について知りたいと思っていたので、「日系アメリカ人との交流」の地域分科会を選びました。第二次世界大戦開始後、彼らがたどった苦難の様子を写真やスライドを見ながら説明を受けました。わずかな準備期間で家財道具、土地などを処分し、持てるものだけを持って収容所に送られたこと、収容所での生活、二世部隊のことなどを学びました。とりわけ印象に残ったのは「日本人狩り(Jap Hunting)」許可の写真でした。また、戦後半世紀以上経って大統領が謝罪文を添えて補償金を支払った時には、苦勞した方々の多くは亡くなっていたという話に胸が痛みました。



『日本人狩り』許可証の写真



ジャパントウンでホストファミリーと (左端が横田さん)

サミット大会は全く知らない異国の方と親密になれる「魔法の術」 平野 良さん



ホストファミリーと一緒に (中央が平野さん)

綿密な計画のもとに実施され、短く思う8日間。大きな感動を与えられました。草の根サミットのすばらしさは、全く知らなかった米国の方々とホームステイを含むプログラムを通して親密な関係を築く「魔法の術」を持っていることです。地域分科会では、州の最初の首都であるバレット市を訪問。咸臨丸が初めて太平洋横断、修理をしてもらったメア島や教会、歴史的建造物、博物館などを見学しました。ホームステイ先では、同じ年代のご夫婦に迎えられ、歴史、文化の違い、政治、中高年の活動、健康、スポーツなど幅広く語り合い、良い勉強となりました。今回は、単語でも通じることを実感していた中学生をはじめ、若い方も多く、会の目的をより効果的にするものと確信いたしました。

かつての黒人差別の問題を知ることができました 西村 厚志さん (13歳)



ピーターとエリックと (中央が西村さん)

草の根交流サミット大会の中で、初めて「バス・ボイコット」という言葉を知りました。それは、黒人はバスに乗る時に差別を受けていたからだということでした。たった40数年前のことです。相当つらい差別がたくさんあったのだと思います。マーティン・ルーサー・キングゆかりの学校へ行ったことがきっかけで、僕はこのことを考えることができました。ホームステイ先のピーターとエリックは、僕のことを大事にしてくれました。何もかもが楽しいホームステイ・プログラムでした。皆さん、本当にありがとうございました。

日本のミニ親善大使になった気分で感動に包まれました 大上美也子さん

ジョン万次郎の奇跡の人生に魅了されてたどりついた草の根サミット大会。オープニングセレモニーで、ゴスペルの音楽とともに椅子に座った時から、日本のミニ親善大使になった気分で感動に包まれました。様々な著名な方々のスピーチに続き、万次郎とホイットフィールド船長の子孫の方々の地球儀交換を見て、日米交流の歴史がしっかり続いている証を感じました。

ホストファミリーのチャンさんたちと過ごした時間は、私の人生の宝物です。チャンさん家族を通して、中国系アメリカ人、日系アメリカ人の歴史に触れ、彼らが自分たちの親や祖父母を大事に思いながら、新しい世代の生き方に自信を持って、堂々と、そして楽しく生活されていることがよく分かりました。また、チャン家族と、子どもたちの学校やスポーツを通じて育まれた地域の人どうしの関係は「愛」と「笑顔」と「ハグ(抱擁)」に満ちていました。



ホストファミリーとツインピークスにて (左から2番目が大上さん)

特別寄稿『ESCAPE FROM MANCHURIA の出版に際して』

CIE-US 元アメリカ代表 ポール丸山さん寄稿

CIE-USの元代表であるポール丸山さんが、このほど「Escape from Manchuria」(満州からの脱出)という本を出版されました。丸山さんのお父様が他の2人とともに、満州に取り残された170万人の日本人たちを救ったノンフィクションです。満州からの引揚げは、彼らの努力がなければ実現するものではありませんでした。丸山さんから、この出版に関して寄稿いただきました。

【右写真】：1946年3月17日、丸山邦雄のNHK全国放送で初めて日本国民が恐れていた満州の悲惨な実情を知る。



国際草の根交流センター (CIE-US) 元アメリカ代表 ポール丸山



コロ島港で、全ての財産を背負って引揚者は日本行きアメリカ海軍 LST に乗船する。LST の乗組員は皆日本人だ。

日本の無条件降伏により第二次世界大戦が終了したのは1945年8月15日でした。その一週間前の8月8日に突然ソ連が日本に対して宣戦を布告し、8月9日の夜明けまでには150万以上のソ連兵が満州に侵入。日本関東軍の抵抗が全く無いといえる状況で満州全体を完全に占領しました。当時満州には(兵士を除いて)170万の日本人が住んでいました。満州は、日本軍にとってあらゆる資源の供給地。多くの日本人は、「お国のため」と祖国に促され、家族と共に満州に移り、土地を耕し、日本の鉄鋼工場などで働き、冬は厳寒ではありましたが、それでも比較的平和な毎日を過ごしていました。しかし、ソ連軍占領以降、満州に住む日本人の生活は急激に悪化し、毎日が危険でつらい状態に変わりました。寒さ、飢え、病気の他、ソ連兵や日本人への報復をねらった暴力集団の手により、毎日2,500人の日本人が死んで行きました。

そのような中、無名の3人の有志(丸山邦雄、新補八郎、武蔵正道)が満州からの脱出を計画しました。彼らは1946年2月22日、密かに大連から天津に行き、中国からの引揚げに関わっていたアメリカ軍の船舶に便乗して、日本に到着しました。

3人は日本でも多くの苦労を経験しますが、最後にはマッカーサー元帥本人と面会し、その結果1946年5月の終わりに満州南部のコロ島という小さな半島からの日本人引揚げが開始され、100万人が無事帰国することができました。

3人の必死の努力により、1946年12月にはソ連軍占領下の大連からも引揚げが可能となり、1948年4月に最後の引揚げ船が佐世保に入港。これで、満州引揚げ事業はほぼ終了したのでした。



東京国分寺で1973年に写した著者の家族と丸山夫妻の写真。左から著者(当時米空軍大尉)、妻のラレー、1歳半の娘キャサリン、母メアリー万里子、父邦雄。



サミット大会会場で、著書を販売する丸山氏(右端)

3有志の活躍は日本でもほとんど知られていません。勿論、アメリカでは全く知られていません。その一番の理由は、3人が完全に秘密裡に満州から脱出したからです。そこで、父や武蔵氏の本を基に、アメリカ国内の資料館などで調査を行い、さらに満州に関する他の書籍や資料などを翻訳し、やっと3氏の活躍を描いた本(英語)を完成させました。

もし、私の著書「Escape from Manchuria」により3有志の活躍を少しでも世界に伝えることが出来れば、これほど嬉しいことはありません。



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com



第21回 高知サミット大会、現在準備進行中!

2011年の第21回日米草の根交流サミット大会は、高知で開催されます。日程は6月末からの約一週間。現在、「高知大会実行委員会」及びその事務局を中心に、準備が順調に進められています。開会式、閉会式などのイベント内容、地域分科会開催地（ホームステイ受け入れ市町村）などについては、近々詳細が決定する予定です。ぜひ、ご期待ください！
現在までに確定している大会の概要は、以下のとおりです。

大会日程と概要 2011年6月28日～7月4日

2011年6月28日(火)	高知市に到着【ホテル泊】
6月29日(水)	オープニングセレモニー&ウェルカムパーティー【ホテル泊】
6月30日(木) ～7月2日(土)	地域分科会【ホームステイ】
7月3日(日)	クロージングセレモニー&フェアウェルパーティー【ホテル泊】
7月4日(月)	帰国、またはポスト・サミット・オプション・ツアーに参加

- 大会実行委員会：県内主要団体の代表及びNPO法人や市民団体の代表約20名で構成
- 名誉大会長：高知県知事・尾崎正直氏
- 大会長：橋井昭六氏
- 大会事務局：高知県文化生活部文化・国際課
- 地域分科会開催地：県内市町村十数か所
- 大会参加者（予定）：米国より約150名
- サミット同窓生（過去大会参加者）約50名

第20回サンフランシスコ／バイエリア大会にて高知大会PR

尚、8月24日から開催された今年の第20回サンフランシスコ／バイエリア大会には、高知県から大会実行委員や「よさこい踊り」のメンバー約30名が参加し、高知大会をおおいにPRしました。



閉会式で「よさこい踊り」を披露
「来年は高知で会いましょう!」と
高知大会をPR

第1回大会実行委員会（6月2日開催）の様子



(名誉大会長／尾崎正直県知事、橋井昭六会長、田中裕美副会長、
他実行委員の面々が出席)

平成21年度協賛企業一覧

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／アサヒビール株式会社／イオン株式会社／NTTコミュニケーションズ株式会社／
関西電力株式会社／キッコーマン株式会社／キャノン株式会社／キリンホールディングス株式会社／
コカ・コーラセントラル ジャパン株式会社／四国電力株式会社／新日本石油株式会社／全日本空輸株式会社／株式会社大庄／
武田薬品工業株式会社／中部電力株式会社／株式会社デンソー／東京海上日動火災保険株式会社／東京電力株式会社／
豊田合成株式会社／トヨタ自動車株式会社／株式会社豊田自動織機／豊田通商株式会社／
トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／株式会社永谷園／株式会社ニフコ／日本郵船株式会社／
パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／株式会社ブリヂストン／三井住友海上火災保険株式会社／三菱商事株式会社／
明治安田生命保険相互会社／矢崎総業株式会社／株式会社菱食